

2019年度第2四半期決算

取締役 兼 執行役員 財務・グローバルマネジメント本部長
福永 彰宏

2019年11月5日
古河電気工業株式会社

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

2019年度上半期実績－要約P/L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY18 H1	FY19 H1	前年比	主な増減内訳 (H1)
	a	b	b-a	
売上高	4,874	4,552	▲ 322	▲322億円(▲7%) 5ページ参照
営業利益	176	108	▲ 68	▲68億円(▲39%)
(率)	3.6%	2.4%	▲ 1.2	6ページ参照
持分法投資損益	4	▲ 2	▲ 6	
為替損益	▲ 6	▲ 8	▲ 2	
経常利益	159	84	▲ 75	▲75億円(▲47%)
(率)	3.3%	1.8%	▲ 1.4	
特別損益	▲ 12	21	+33	・特別利益：+31 (16→47)
法人税等	33	42	+9	・特別損失：+2 (▲27→▲25)
非支配株主に帰属する 当期純利益	15	2	▲ 14	
親会社株主に帰属する 当期純利益	98	61	▲ 38	▲38億円(▲38%)
(率)	2.0%	1.3%	▲ 0.7	
銅建値 平均	760	692	－	
為替 平均	110	109	－	

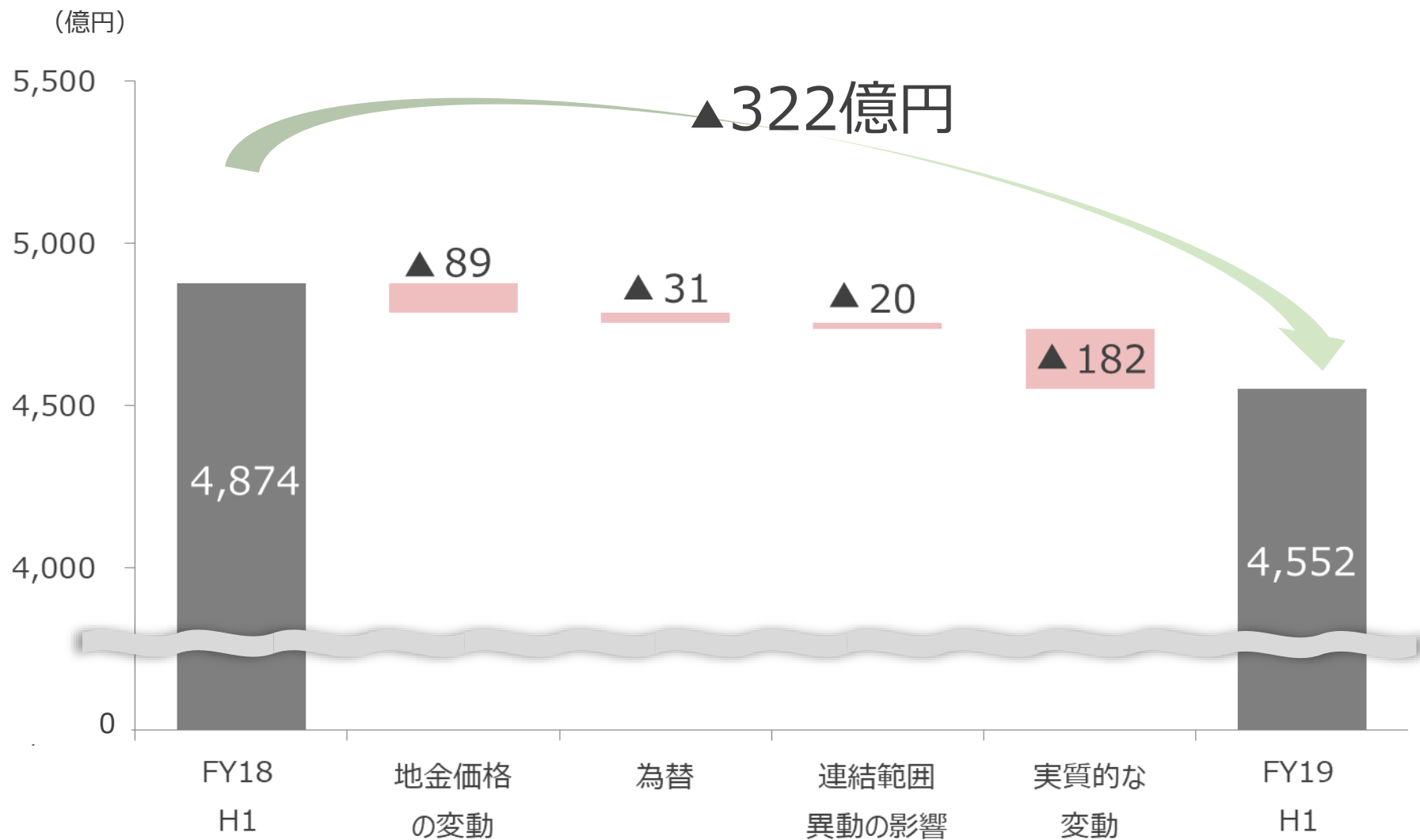
2019年度通期予想見直し－要約P/L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

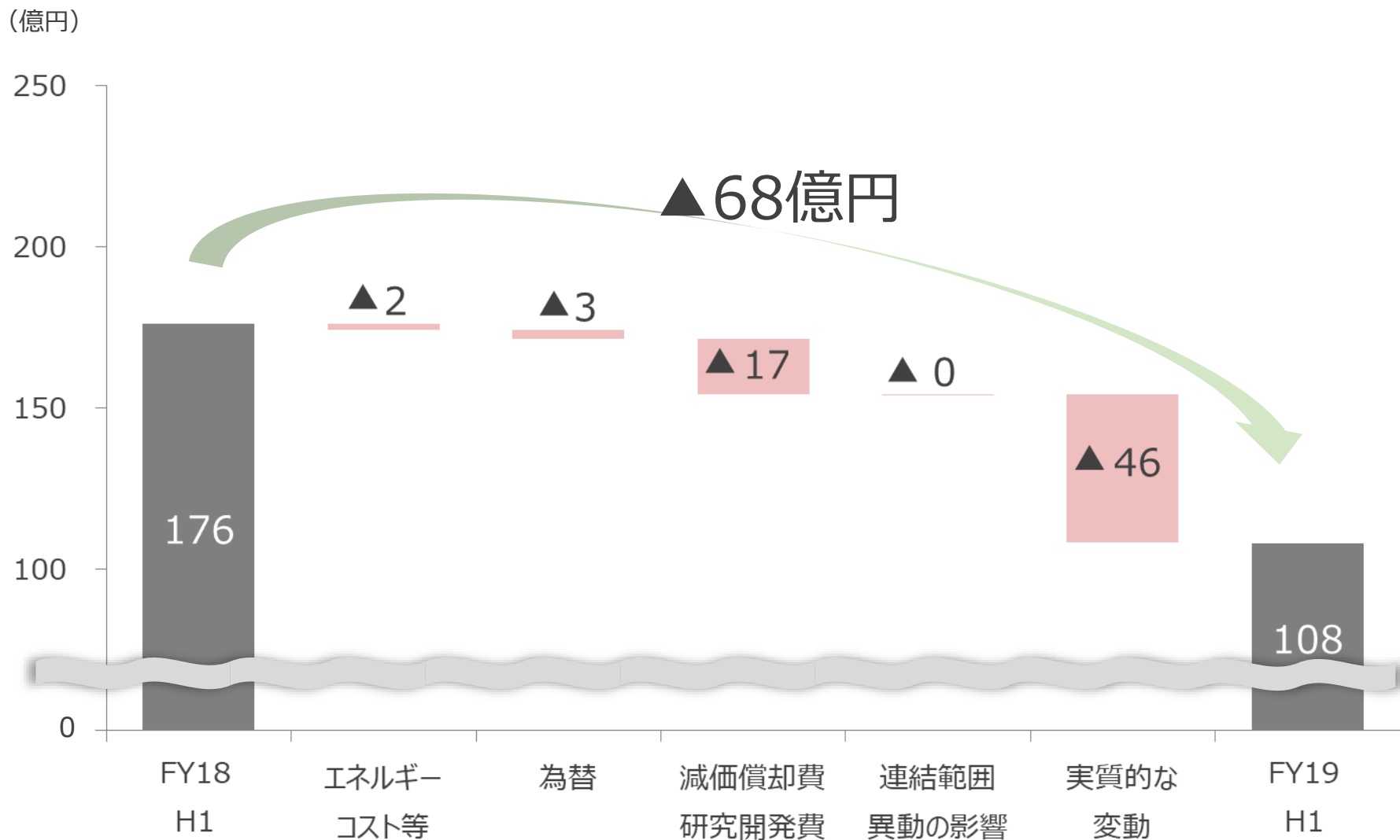
	FY18 実績	*FY19 前回予想	FY19 予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	9,916	9,600	9,100	▲ 816	▲ 500
営業利益	408	400	260	▲ 148	▲ 140
(率)	4.1%	4.2%	2.9%	▲ 1.3	▲ 1.3
持分法投資損益	17	—	—	—	—
為替損益	▲ 11	—	—	—	—
経常利益	391	375	225	▲ 166	▲ 150
(率)	3.9%	3.9%	2.5%	▲ 1.5	▲ 1.4
特別損益	▲ 33	▲ 60	▲ 15	+18	+45
法人税等	33	—	—	—	—
非支配株主に帰属する 当期純利益	33	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	291	210	110	▲ 181	▲ 100
(率)	2.9%	2.2%	1.2%	▲ 1.7	▲ 1.0
銅建値 平均	747	760	666	(H1実績:692 H2前提: 640)	
為替 平均	111	110	107	(H1実績:109 H2前提: 105)	

*2019/5/14公表

2019年度上半期実績—売上高の増減要因（前年比）



2019年度上半期実績 - 営業利益の増減要因 (前年比)



2019年度通期予想見直し—セグメント別売上高および営業利益

(単位：億円)

	H1			通期					
	FY18 実績	FY19 実績	前年差	FY18 実績	*FY19 前回予想	FY19 予想	前年比	前回予想比	
売上高	インフラ	1,392	1,379	▲ 13	2,880	2,850	2,750	▲ 130	▲ 100
	情報通信ソリューション	909	822	▲ 87	1,799	1,700	1,600	▲ 199	▲ 100
	エネルギーインフラ	483	557	+74	1,081	1,150	1,150	+69	+0
	電装エレクトロニクス	2,764	2,544	▲ 220	5,617	5,550	5,150	▲ 467	▲ 400
	自動車部品・電池	1,274	1,227	▲ 47	2,673	2,650	2,550	▲ 123	▲ 100
	電装エレクトロニクス材料	1,490	1,317	▲ 173	2,944	2,900	2,600	▲ 344	▲ 300
	機能製品	783	586	▲ 197	1,493	1,250	1,200	▲ 293	▲ 50
	サービス・開発等	236	262	+26	486	500	500	+14	+0
	連結消去	▲ 301	▲ 219	+82	▲ 559	▲ 550	▲ 500	+59	+50
	連結合計	4,874	4,552	▲ 322	9,916	9,600	9,100	▲ 816	▲ 500
営業利益	インフラ	23	6	▲ 18	74	100	30	▲ 44	▲ 70
	情報通信ソリューション	61	8	▲ 53	98	100	30	▲ 68	▲ 70
	エネルギーインフラ	▲ 38	▲ 3	+36	▲ 24	0	0	+24	+0
	電装エレクトロニクス	77	67	▲ 11	195	185	155	▲ 40	▲ 30
	自動車部品・電池	48	52	+4	135	130	120	▲ 15	▲ 10
	電装エレクトロニクス材料	29	15	▲ 14	60	55	35	▲ 25	▲ 20
	機能製品	75	36	▲ 39	135	120	80	▲ 55	▲ 40
	サービス・開発等	▲ 1	▲ 1	▲ 0	3	▲ 5	▲ 5	▲ 8	+0
	連結消去	0	▲ 0	▲ 0	1	0	0	▲ 1	+0
	連結合計	176	108	▲ 68	408	400	260	▲ 148	▲ 140

*2019/5/14公表

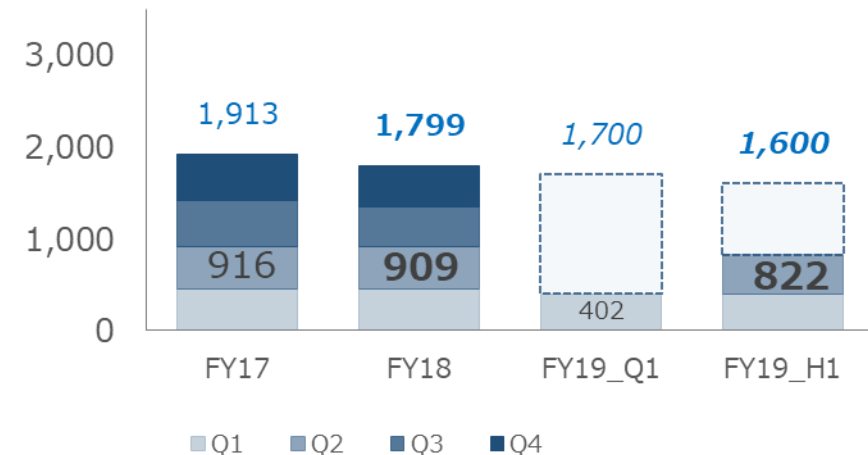
Intentionally Blank

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

(事業部門：ファイバ・ケーブル、ファイテル製品、ブロードバンドソリューション)

売上高

(億円)



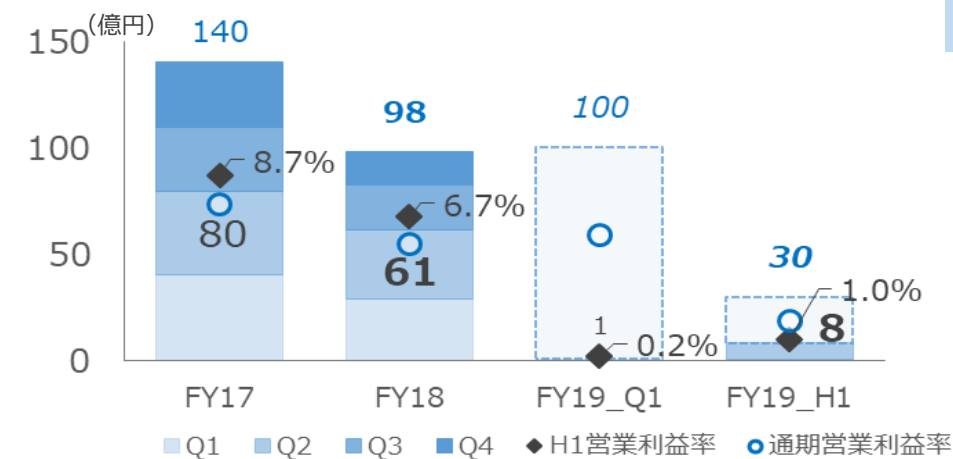
H1営業利益：前年比 ▲53億円

□：増益要因 ■：減益要因
・：トピックス ✓：注カポイント

- 欧州・アジアでの光ファイバ・ケーブル価格競争激化による減収
- 北米光ケーブルの受注環境は良好だが、当社の生産性改善・増産対応に遅れ
- 研究開発費、償却費の増加

□ デジタルコヒーレント関連製品は増収

営業利益・営業利益率



H2予想

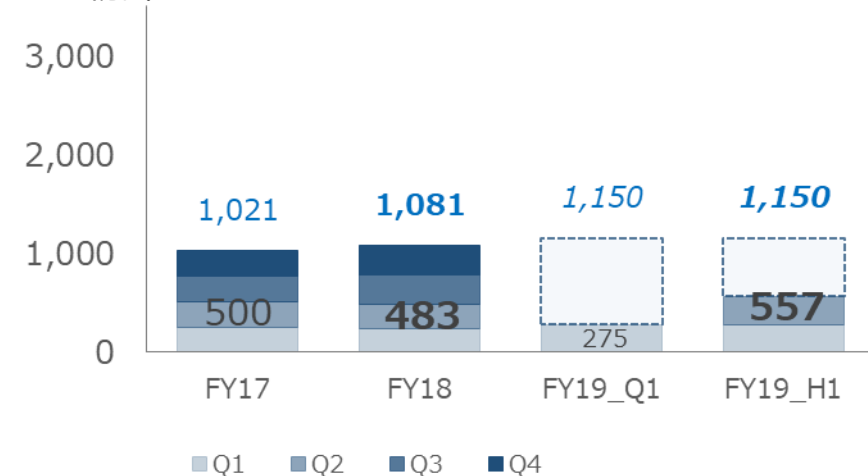
- ・ 国内光ケーブルは好調持続
 - ・ 北米光ケーブルは生産性改善、増産効果発現
 - ・ 光ファイバ・ケーブル価格下落の影響は継続
 - ・ デジタルコヒーレント関連製品の次世代転換促進
- ✓ データセンタ向けなどで高機能ファイバ・超多心高密度ケーブル拡販加速
- ✓ 5Gネットワーク構築に向けた次世代製品の開発、ソリューション事業の推進

青：通期 売上・営業利益
黒：H1 売上・営業利益

1-(2) インフラ (エネルギーインフラ)

売上高

(億円)



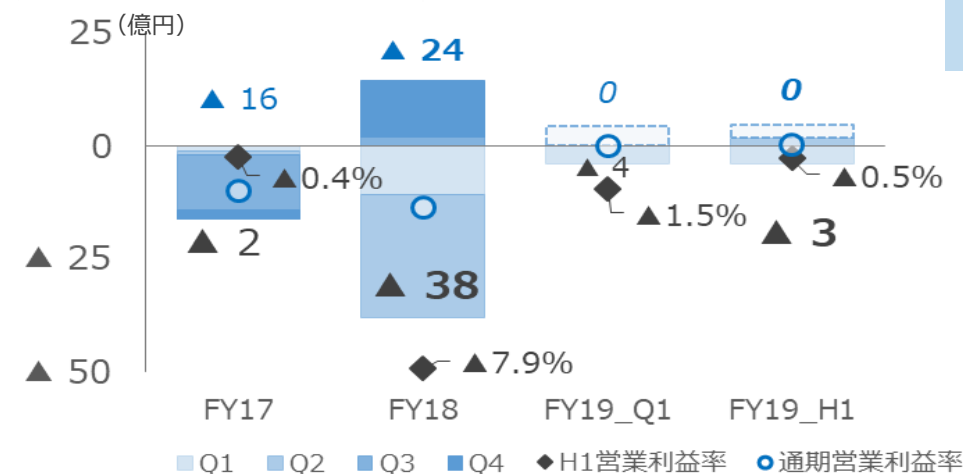
(事業部門：電力、産業電線・機器)

H1営業利益：前年比 +36億円

□：増益要因 ■：減益要因
・：トピックス ✓：注力ポイント

- 国内の地中線案件需要の着実な取り込み
- 中国子会社は計画通りの進捗
- 海外低採算案件は18年度で終了
- 前年は新エネルギー受注案件の工事損失引当金計上
- 産業電線は採算性改善の効果

営業利益・営業利益率



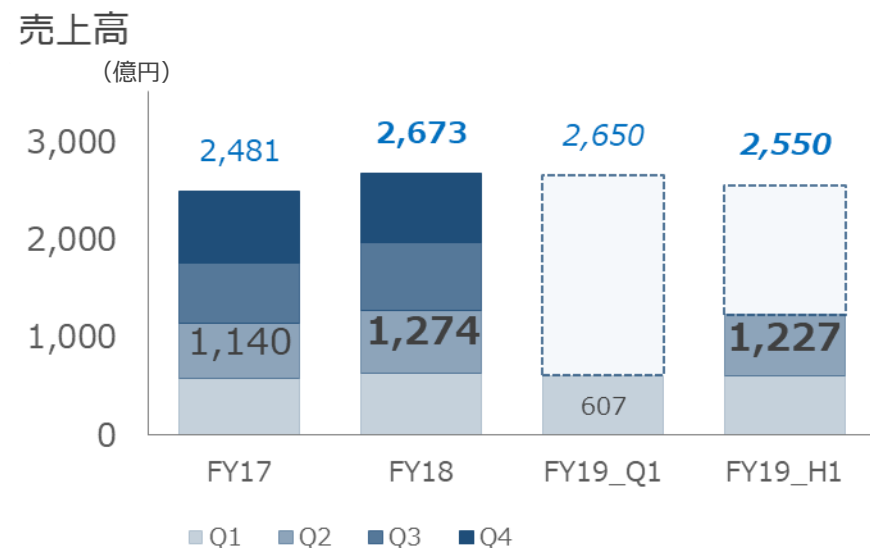
H2予想

- ・ 9月の台風の影響で、電力事業の一部設備で稼働休止期間はあるも、通期計画達成を見込む
- ✓ 国内超高圧・再生可能エネルギー案件の着実な需要取り込み
- ✓ 工事施工能力および海底線対応設備増強
- ✓ 生産性改善によるコスト低減
- ✓ 軽さ・柔らかさ等の特徴（施工性の良さ）を持ったアルミCVケーブルおよび部品の拡販

青：通期 売上・営業利益
黒：H1 売上・営業利益

2-(1) 電装エレクトロニクス (自動車部品・電池)

(事業部門：自動車部品、電池)

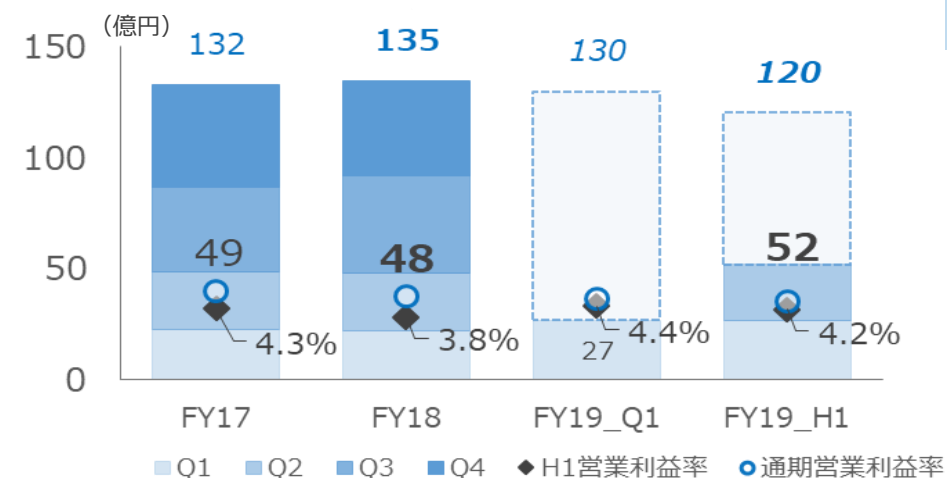


H1営業利益：前年比 +4億円

□：増益要因 ■：減益要因
・：トピックス ✓：注カポイント

- 電池は主原材料の鉛価格下落に加え、産業分野の伸びにより堅調
- 20年度以降の案件に向けた、研究開発費、償却費等の固定費増加

営業利益・営業利益率



青：通期 売上・営業利益
黒：H1 売上・営業利益

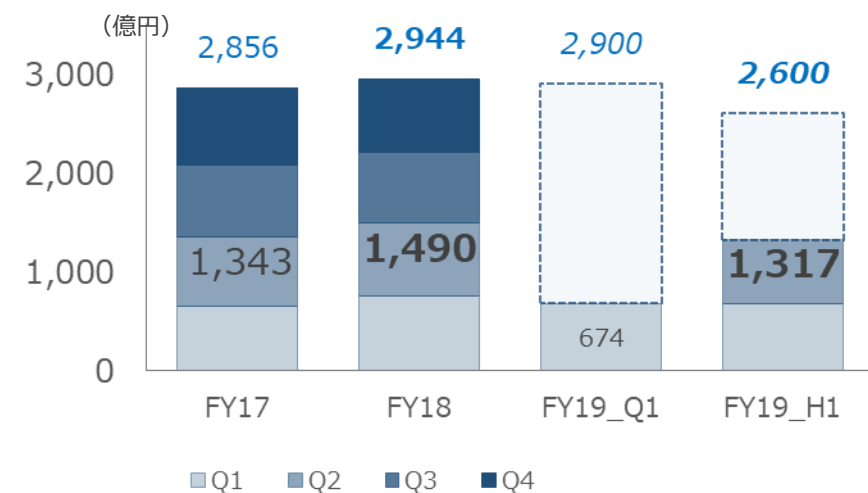
H2予想

- ・ 市場環境の変化により各地域でワイヤハーネスは減収傾向
- ✓ 電動化・自動運転化の進展による軽量化需要の積極的取り込み
- ✓ 北米向けワイヤハーネス拡大に向けたアジアでの増産投資の着実な実行
- ✓ 先進運転支援システム関連として、次期高精度レーダの新規受注獲得活動と、従来モデルの拡販および20年型高機能BSSの完成

2-(2) 電装エレクトロニクス (電装エレクトロニクス材料)

売上高

(事業部門：導電材、巻線、銅条・高機能材、銅管)

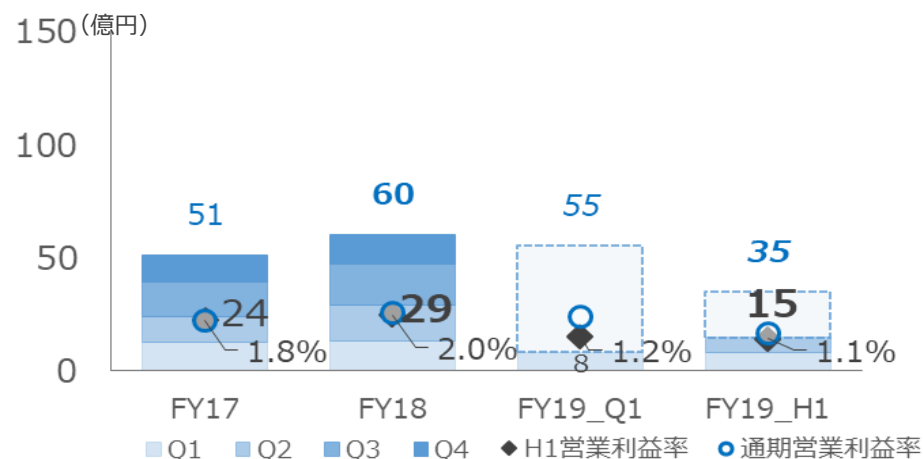


H1営業利益：前年比 ▲14億円

□：増益要因 ■：減益要因
・：トピックス ✓：注力ポイント

- スマートフォンをはじめとするエレクトロニクス関連の需要低迷が想定以上
- 巻線の電動車用途の売上は堅調

営業利益・営業利益率



青：通期 売上・営業利益
黒：H1 売上・営業利益

H2予想

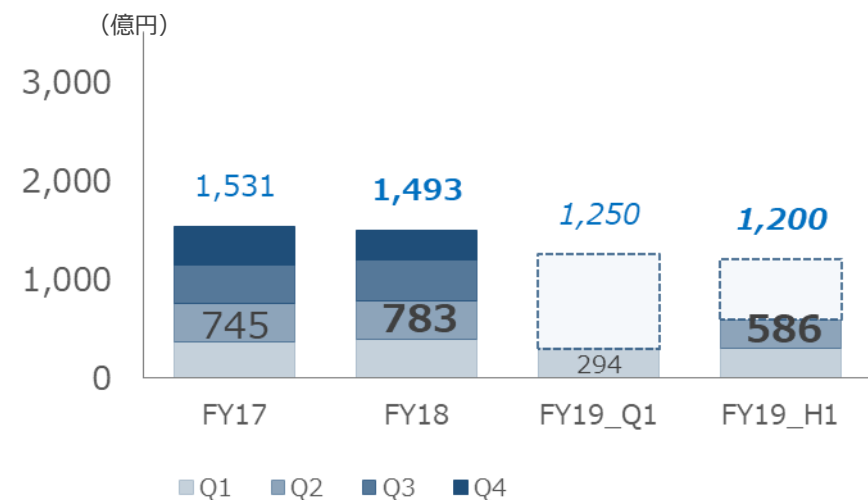
- ・ エレクトロニクス関連の需要低迷継続
- ✓ 市場ニーズに合わせた製品ミックス改善と生産性の向上
- ✓ 電子機器の高機能化に対応したオリジナル合金の拡販
- ✓ 5G通信インフラ向けやサーバ用インダクタ向けに差別化した巻線の拡販
- ✓ 自動車用巻線のグローバルでの採用拡大

3 機能製品

売上高

(事業部門：AT・機能樹脂、サーマル・電子部品、メモリーディスク、銅箔)

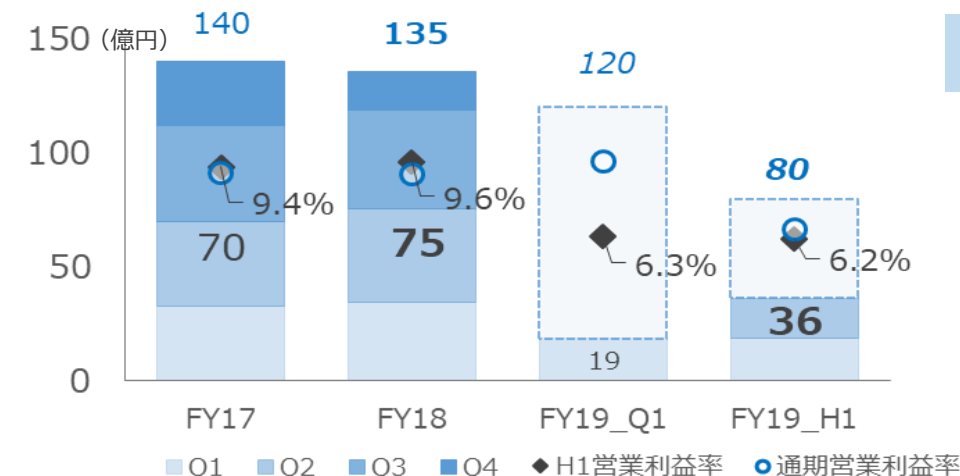
H1営業利益：前年比 ▲39億円



□：増益要因 ■：減益要因
・：トピックス ✓：注カポイント

- 火災の影響による銅箔の減収
- 好調であった前年と比較して、データセンタ、メモリ、スマートフォン等の需要低迷
- 配管用断熱材、地中埋設用ケーブル保護管は堅調

営業利益・営業利益率



H2予想

- ・ データセンタ関連の需要は、Q4から本格回復を見込む
- ✓ データセンタ市場を中心に、新たな収益基盤となる次世代品の開発
- ✓ 新規市場開拓・新用途の提案
- ✓ さらなる生産性向上・市場対応力の強化

青：通期 売上・営業利益
黒：H1 売上・営業利益

2019年度上半期実績 – 要約 B/S

(単位：億円)

	FY18Q4末	FY19H1末	増減
	a	b	b-a
流動資産	4,205	3,860	▲ 345
現金及び預金	446	401	▲ 45
受取手形及び売掛金	2,193	1,943	▲ 250
たな卸資産計	1,229	1,252	+23
固定資産	3,975	4,120	+145
有形固定資産	2,294	2,456	+163
無形固定資産	122	134	+12
投資その他の資産	1,559	1,530	▲ 30
資産合計	8,180	7,980	▲ 200
流動負債	3,316	3,226	▲ 90
固定負債	2,065	1,982	▲ 83
負債合計	5,381	5,208	▲ 173
株主資本	2,431	2,451	+20
その他の包括利益累計額	46	4	▲ 42
非支配株主持分	323	318	▲ 4
純資産合計	2,799	2,772	▲ 27
負債・純資産合計	8,180	7,980	▲ 200
有利子負債	2,460	2,502	+42
自己資本比率	30.3%	30.8%	+0.5
NET D/Eレシオ	0.81	0.86	+0.04

有形・無形固定資産

175億円 増加

設備投資増加の影響
120億円

海外子会社へのIFRS16号(新リ-
ス会計基準)適用
73億円

投資その他

30億円 減少

投資有価証券減少
▲20億円
(株式売却および時価評価等)

その他の包括利益累計額

42億円 減少

為替換算調整勘定減少
▲40億円
(新興国通貨安の影響等)

(単位：億円)

	FY18 H1 実績	FY19 H1 実績	前年比 増減	FY19 年間予想
	a	b	b-a	
設備投資額	209	262	+53	480
減価償却費	130	142	+12	305
研究開発費	103	109	+6	230

ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***